

横小だより

新潟市立
横越小学校発行
R 4・6・2
臨時号



Eメール e407yokogoshi@city-niigata.ed.jp

URL <http://www.e407yokogoshi.city-niigata.ed.jp/>

《シリーズ》

第8回



Yokogoshi

校長

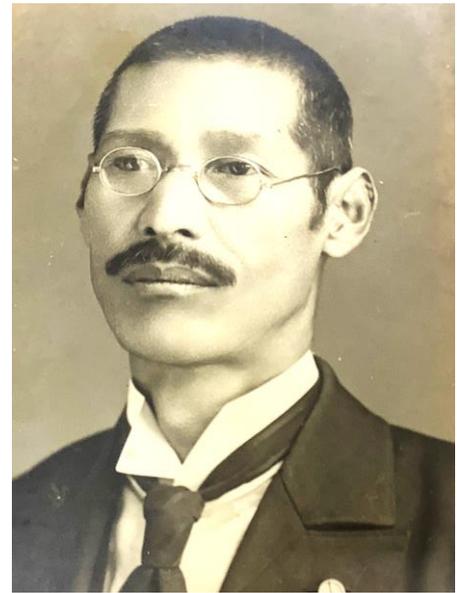
戸田 道治

今回御紹介したいのは、旧横越小学校第9代校長の村手 範 先生です。もともと明治10年沢海生まれで、明治39年、29歳の若さで校長に就任して以来、その後約25年の長きにわたり、旧横越小学校の校長としてお勤めされました。

村手校長先生の勤続20年に際し、当時の丸山小学校の校長先生が、次のような祝辞を寄せています。

【要約】

村手先生は、ここまで少なくとも4～5回、大きな学校から校長として引き抜きの話があった。しかし全て断って来られた。自分も一緒にお勤めして真に勉強になったのは、横越校時代だけである。村手先生のような方を校長に置いていただけることは横越の誇りであり、いくら自慢しても差し支えない。



第9代 村手 範 校長先生

この祝辞にあるように、村手先生は横越校1か校のみの校長として勤め上げ、そのまま御退職されました。校長在任中は1日の欠勤もなく、沢海の自宅から横越校まで徒歩で通勤されたとか。

村手先生について、実は私が最も感銘を受けたのは、昭和4年に村手先生御自身が書かれた次の内容の文章です。

【要約】

全ての国民にとって、道徳・知識・技能に男女の区別はありません。しかし今なお「女だから」という声をしばしば聞きます。これでは男子と同様に進歩し発展することはできません。

教育は装飾ではありません。「学校に入れた」「卒業させた」は何の役にも立ちません。少なくとも「女だから」という言葉は、一刻も早く退治しようではありませんか。

時代背景としては、この前年の昭和3年に初の男子のみの普通選挙(納税金額を問わず選挙権を与える)を終えたばかりで、女子の参政権に至っては、ずっと後の昭和21年になります。その時代に、村手先生は女子教育の必要性を堂々と諭されています。この先進的な考えの村手先生もそうですが、この考えに共感した横越村民の志こそが、「教育村」を築いた基盤です。横越村民は後に、村手先生に名誉村民の称号を贈りました。